



「練塀フォーラム」開催！

1月21日(日)に祝島公民館において「練塀フォーラム」を開催いたしました。参加者はおよそ60名でした。午前中は、練塀の多く残る通りや、修復予定箇所の視察を行い、午後からは以下の講演・報告が行われました。参加された皆さんからは「大変勉強になった」との声が多く聞かれました。

当日はマスコミの取材もあり、フォーラムの様子はテレビ等で報道されました。

- (1)基調講演：「祝島と世界の集落」広島大学名誉教授・難波平人氏
- (2)報告：「祝島集落と練塀、そして練塀に類似する国内事例」
広島工業大学教授・森保洋之氏および森保研究室学生の皆さん
- (3)講演：「国東半島の練塀について」小田原賢司氏
- (4)講演：「練塀集落を守る」橋部好明氏

当初予定しておりました平万次さんの講演は、平さんの都合が悪くなり、代わって国東半島で練塀の研究をされている小田原さんに講演をお願いしました。



まずは現地視察。橋部さんの案内で練塀の多く残る地区とこれから修復作業を行う予定の地区の視察を行いました。



フォーラムの様子。スライドやプロジェクターを用い、多くの写真や図表を使った報告や講演が行われました。

練塀修復作業のボランティア募集について、最終ページに掲載しています。

目次

練塀フォーラム	1
祝島の歴史を探る	2
花*花クイズ	3
会員リレーコラム	4
魚・さかな・肴	5
祝島懐かしの料理	6
イギリスだより	7
先生、お元気ですか？	8
新春ライブ	9
Lets Learn English	10
祝島不老長寿パズル	11
お知らせ / 読者 / 編集後記	12

きびわり
せんああのや



島ネコ物語 絵・しげむらみちこ

<連載> 祝島の歴史を探る(19) ~郷土の口説(その1)~ 蛭子 葉子

以前に「祝島の歴史を探る」で引用した故出田政次氏の「郷土の口説」を、これから少しずつ紹介していきたいと思います。

出田氏は子供を亡くした深い悲しみを祝島の風土によって癒され、そのことがきっかけとなって、「郷土の口説」を書かれたようです。冒頭には、

「悲しみ失望にみちた、やるせない我が身を地にうつ伏して、息を殺して大声をあげて嘆き号泣し、天の導きの恵も無い身を嘆きつゝ、あゝと空を仰ぎ見れば、空も海も青一色に染まりどこまでも青い、その青い海中に、ゆったりと、美しく真珠か玉のように浮かんでいる嶋、うつむいて脚下を眺めれば、絶壁で非常に長い切り立った崖、非常に高く深い無数の岩礁がそびえ立ち、大波のために打ち砕かれている、広々とした海に広がる波は、青空につらなり、遙か遠くに汽船が通っていく。振り向いて、山々を眺めれば、平凡でありながら、不思議なまですぐれている。遠い昔から、山々は動ぜずゆったりとしてたたずみ、青々として草木に包まれている。この俗界から離れた清らかな故郷を懐しみ、郷土の歴史を編纂しようと思いつき、作詞致しました。

春は桜の綾衣着て 鯨潮噴く此の仙郷を
祝いませとや 祝の嶋を」

と書かれています。



出田政次氏自筆の「郷土の口説」の冒頭

今回は第1回目の会報で書いた時代まで紹介します。

「周田三里ほどの青々とした嶋も、古くから伝わる古事・由来や発掘し出土した品数々がある。まず、石器時代から縄文・弥生時代の文化が発達し始めた頃に、少しずつ開かれ出した自然界の神秘、夢の浮き島・伽の国のような島を、石器時代には市杵嶋姫(いちきしまひめ)が方々を巡り歩く途中に風光明媚で神秘的祝島の地、ここを永住の地に定めたいと思し召されたが、残念ながら七浦蛭子に一浦足りぬ、そこで宮島を目指して移住の時に櫛とコーガイ(髪をかきあげるのに使う道具)を落とされたとか。今の櫛石・コーガイ石はそれを模して伝えたものであろうか。」

おいしいですね、あと一步でメジャーデビューをのがしました。

「十四代仲哀天皇、神功皇后が三韓(新羅・百濟・高麗)征伐の時に、瀬戸内海を帰航するおりに、戦国船を繋かれたとみられる濱の平も、今では陸地や島となり、祝島が、蓬莱島・硫黄島・岩豊島・石見島と呼ばれるころには、もはや、航海上の要路の島として広く社会へ知られていた。」

会報で紹介した田中繁男氏の「神功皇后」で書かれた出来事です。田中氏は誰から祝島の話聞いたかもう覚えていないとのことですが、祝島には興味をもっておられるようで、島に「額田王」がきたという伝承はありませんかとも聞かれました。田中氏も「額田王」が祝島にも立ち寄ったのではないかと考えられているようです。(いずれ「額田王」についても小説を出す予定でいろいろ調査されているとのことでした。)

「用命天皇が、豊後から帰る途中、玉依姫(たまよりひめ)を我がものにしたと考え、真野の長者を訪ねたおりに、般若姫(はんにゃひめ)が、玉依姫の身変わりとなって、海の神にと身を投じた。今も残る大島の瀬戸では、年の暮れ、満潮の丑三つ時になると灯明が上がり、伊保庄般若寺の老い松の基へ火が灯り、最後に御堂の仏壇へ火が灯ったという現象

が起きるとの実例こそは、不知火の火魂と呼び、その
おり島の名も祝島にと変わり、今なお残る祝の口(い
わいのくち)に船を着けられて、祝いの酒盛りをされ
たという。」

柳井の「般若姫伝説」に関わる祝島。海に身を投げ
た般若姫の眠る平生の般若寺の観音堂にある日光・月
光の窓には、毎年陰暦の大晦日、丑寅の刻、海上から
上がった火の玉が入っていくと云われているそうで
す。

協力：井上美登里（文書解析・現代語訳）



平生の般若寺の観音堂

<連載> 花*花クイズ(19)

橋部 好明



前回の花・花クイズの答えはヤブランでした。

山地の木陰に生えるユリ科の多年草。夏から秋に根元から、長さ40～50cmの花茎を伸ばし、花

茎の中間から上に花を多数つけます。花びらは6枚で淡紫色、黄色い花粉のついた雄しべが6本と雌しべが1本とがあります。花後に緑色球になり、やがて濃紫色球に変わります。これは実ではなく種。ヤブラン属では実にならないで種になります。

“山菅”の線形の葉を東洋ランの仲間とされ、林の中や森のへりの 藪 のようなところに自生するので、江戸時代に”藪蘭“ヤブランとなりました。

ヤブランは、万葉仮名で“也末須介”やますげ。万葉集では“山菅”で詠まれています。

“ぬばたまの 黒髪山の 山菅に
小雨降りしき しくしく思ほゆ“
(巻11 - 2456)

花が終わったあと、濃紫の実が雨に濡れていっそう艶やかさをます光景。(やますげに小雨が降りしきり、私もあなたのことがせつに思われてならない・・・) そばにいて欲しいという一途な恋、歌びとたちの恋心を感じますね。

さて、今回の花の名前は？

六月ごろ、集落の上の方で、石垣にはってました。折からの朝日を浴びてゴールドの輝き。なんだか王冠を連想しますね。晩秋には黒い実をつけます。サテ?!



これは何の花？



会員リレーコラム(20) ~ 山本 浩徳さん ~

このコーナーは「祝島ネット21」の会員の皆さんに、自己紹介を兼ねて簡単なコラムを書いていただくコーナーです。第20回目は、山本浩徳さんの登場です。



沖縄本島最北端の地にて。後は東シナ海です。海もですが地平線に沈む夕日がメチャキレイです。

皆さん、こんにちは。幽霊会員（名ばかりなもの）の山本です。海の無い奈良県生駒市に住んでいます。静かな環境で、近くには名所旧跡もたくさんありとても気に入っています。仕事は機械メーカーでプラントの設計をしていて、そのおかげ(?)で北は北海道から南は沖縄まで出張に行けるので、それなりに楽しくやっています。まあ、そうは言っても基本的に日帰り出張なので、結構しんどいんですよ。そうそう、木村先生と同級生のY本のキヨシさんが私と同じ職場で、席が横なんです。最初、祝島出身と聞いたときはもうビックリしました。なんとも世間で狭いですよね、ほんと悪いことはできません（別に悪いことをしたわけではないのですが・・・）。

ネット21ですが、なにか祝島の役に立てればと、入ってはみたものの、たしか第1回目の不老長寿マラソンで給水係のボランティアをしたのが最初で最後かな。やはり関西在住ということで、祝島までの距離は如何ともしがたく、なんて言い訳してますが・・・。秀人すまんのう、やる気はあるが体がついてこのじゃ。そうはいつでも、一応会員なので必要とあらば声を掛けてください。帰島中であれば老体にムチ打ってでもボランティアとしてお手伝いさせてもらいます。

それにしても、秀人がUターンして約10年(注)かな?祝島ホームページの掲示板投稿者第2号(1号はもちろん管理者)がたしか姪っ子で、当時ホームページのコピーを見せてもらって会社で毎日のように見てました(今もですが)。島から発信される、日常の小さな出来事をホームページで見るとは心が癒されたものです。この10年で島がどう変わったのか、変わらなかったのかは島に住んでいないものとしてはわかりません。しかし、確実に人口は減少し、高齢化が進んだことだけは確かだと思います。このままいくとどうなるんでしょうねえ、私が定年するころはいったい人口は何人になっているんでしょう。定年後は島に帰って船でも買ってのんびり過ごしたいなあ、なんてまじめに思ってるんですが。永住というわけにはいかないかもしれませんが、年に数ヶ月単位とかで祝島で生活できないものかと考えています。私みたいに考えている方は他にもいるんじゃないでしょうかねえ。

ネット21で取り組んでいる、「不老長寿マラソン」「練塀修復」などはほんとうに画期的なことで、島の人たちだけでは、このようなアイデアもそれを行動に移すこともたぶん難しかったと思います。(冠婚葬祭や、「よばれ」などの時のおばちゃん達の行動力と団結力にはかないませんが・・・)

今までやってきたこともそうですが、これから取り組もうとすることも「ネット21」の人脈をもってすれば、どんなことでも出来るのではないのでしょうか。もちろん私もその一役を担うつもりです・・・が・・・自信



最近これにハマってます。

ないけど。

島の活性化はもちろんです、これからは高齢化や人口の減少に歯止めを掛けるなどの手を打たないと近い将来猫だけが住む無人島になってしまいますよね。



2年前、平さんの棚田にて

私みたいに将来島に帰りたいとか、島出身でなくても、島に住んでみたい人とかいると思います。そういった人たちの受け入れを考えていく

必要があるかもですね。老人ばかりになってもいいと思いますよ、大事なのは祝島に人が住み続けることだと思います。練堀もそうですが、今ある家々も朽ち果てていく姿は見たくありませんものね。

ヒデト～（サトシくんも）ガンバッテ島に住んどいてな、きっと十数年後には島に帰りますんで・・・。（生きてたら（笑））

（注）Uターンしてからはまだ7年です。（気持ちとしては“もう”7年ですが・・・）「祝島ホームページ」を運営し始めてからは今年で10年になります。（by 國弘）

<連載> 魚・さかな・肴(20) ～ スズキ ～

木村 力

スズキと言えば夏の魚です。夏の盆までのスズキはやはりちがいます。実は私は旨い時期の夏のスズキはあまり釣ったことがないのです。秋になって波止や浜の近くに寄ってきたスズキを釣った方がはるかに多いのです。1989年の秋から冬にかけては、よく釣れました。平均するとちょうど2kgのスズキでした。明け方の東の波止のそばに寄ってきたスズキをルアーで釣ったのです。ルアーとかは素人ですが、あまり腕とかは関係ないという感じで釣れたのです。これが祝島の海の強さかなあと思います。原始的な道具でも釣れそうな海なのです。

スズキは1kgくらいまではセイゴといえます。セイ

ゴより大きいのをフッコというところもあるようですが、祝島ではセイゴの上はスズキで、セイゴとスズキの呼び方だけです。

夏のかかり釣りでは、ふかせ釣りで、小さい鉛をつけて潮の流れに乗せ、水面近くに生きたえびを泳がせて釣っていました。最初は「あだぐわえ」で、「ちゃんとかわえて引っ張るまで待つのだ」と言われたように思います。これは腕が必要な釣りのようです。

あらい、刺身、塩焼き、ムニエル、あらは煮付け。夏以外は少し生臭い感じはしますが、身が透明で旨い魚です。



5kgくらいの大物です



スズキの刺身

<連載> 『聞いてみん菜・食べてみん菜』

祝島懐かしの料理(16)

～ いよ味噌(魚味噌) ～

祝島食べてみ隊

回を重ねるに従ってぼつぼつネタ切れとなり、さて何にしようといういろいろ迷ったあげく、神様仏様「何でもランキング」様とばかりに、祝島ホームページの「祝島懐かし料理」を久しぶりに開けてみました。あった、あった、これだと飛びついたのが「いよ味噌」です。

母に作り方を聞いてみると、「そりゃあ、つい魚を焼いて味噌と混ぜるのいね」とのこと。「祝島では魚に味噌をつけて食べるのは当たり前。それをほぐして味噌に混ぜ込んだものをいよ味噌というんじゃないろう」ということで、少々心もとなく、親戚のおばさんに聞いてみると、「私もあんまり作らんのじゃが、酢味噌で作る人もあってよ」ということで、今回酢味噌でも作ってみました。

そう言えば子供のころ、祖母がよくヤハギを焼いてくれたのに味噌をつけて食べていましたが、それがこの上なくおいしくて大好物でした。けれども、祝島以外では見かけることはなく、私の中では長いこと幻の魚になっていました。それが何十年かぶりに祝島に帰ってみると、波止で、もういいよ、と言うほど釣れるではありませんか。食べて食べて、食べまくりました！いくら食べても食べ飽きません。私にとっては、ヤハギ(オセンコウ)は、これぞ祝島の味なのです。

ちなみに、祝島の外にはなぜないのだろうと不思議に思い、図鑑で探してみると、鑑賞魚の項に、「スズメダイ」として出ていました?! ほんとうかしら?

では材料から。

<材料>

ホゴ(カサゴ)のような白身魚(ヤハギがあればなあ)、祝島味噌、酢

<作り方>

魚はウロコを取り、腹を出して焼く。

今回は魚屋でメバルとホウボウを見つけたので、そ



の2種類で作ってみました。

酢味噌をつくる。

残念ながら祝島味噌が手元になく、長崎産の麦味噌を使いました。分量は大まかですが、味噌大さじ2



に対し、みりんを大さじ1、砂糖小さじ3といったところです。

焼きあがった魚をほぐす。

母は、生臭いので皮は外すと言っていましたが、こんがり焼けば気にならないだろうと思って皮をつけたままにしました。



写真の左側上がメバルの生味噌と下が酢味噌、右側上がホウボウの生味噌と下が酢味噌です。生味噌は、両方の魚に対して大さじ山3杯くらい用意していましたが、そ



の半分くらいでちょうどよかったようです。

出来上がった4種類を家人に食べ比べてもらいました。そして好きな順に並べてもらうと、

1 メバルの酢味噌、2 メバルの生味噌、3 ホウボウの酢味噌、4 ホウボウの生味噌

でした。元々焼き魚でも酢をたらすのが好きな人間なので、そのせいもあるかもしれないし、味噌が祝島味噌ならまた違ったかも、なんて思ったけど、私もやっぱり同じ結果でした。結局魚の味なんでしょうね。

やっぱりヤハギを使った「いよ味噌」食べたい!

<連載> イギリスだより ~ 第四話 初めてのクリスマス ~ 川口 あすか

祝島ネット21イギリス支部のマーティンさんと、あすかさんのイギリスからのレポート第4弾です。尚、お二人は3月には日本に帰って来られる予定ですので、「イギリスだより」は今回でちょっとお休みかな？

皆様、明けましておめでとうございます。日本のお正月はいかがでしたか。気が付けば、日本の友達にも「ねえねえ、日本のお正月はどうだった？」としつこく聞いています。イギリスのお正月休みは元旦のみで2日から仕事始めということもあり、今年は本当に日本のお正月が恋しく感じられました。

イギリスでは日本のお正月に当たるメインイベントと言えば、やはりクリスマスです。今年はマーティンの家族と一緒に、イギリスで初のクリスマスを体験しました。私にとってのクリスマスと言えば、ジュワーという音とともに肉汁の滴る鳥足、純白な生クリームと真っ赤なイチゴのコンビネーションがさらに食欲をそそるイチゴショートケーキ、それからこの日のために何ヶ月も前から目をつけていたプレゼントといった具合です。考えてみると、食欲、物欲と何とも欲にまみれたクリスマスです。

さて、クリスマスイブの朝、私とマーティンはジュリエットの指揮の下、クリスマスディナーの仕込みの手伝いです。仕込みといっても主にはジャガイモの皮むきでしたが、イギリスのクリスマスディナーの定番メニューは、ターキー、マッシュポテト、芽キャベツやブロッコリーといった野菜、そしてクリスマスディナーの最後を飾るクリスマスブディングです。いたってシンプル。あらかじめ下ごしらえが終わると、午後からみんなで暖炉を囲んでクリスマスカードを見たりとのんびりと過ごしました。そんな一家団欒のひと時が、こたつで背を丸くして年賀状に見入り、今年は何枚届いたとか届かないとかというたわいもない話で盛り上がる上関の我が家のお正月をふと思ひ起こさせてくれるのでした。

イブの真夜中、私たちは近くの教会のミサに参加しました。500年以上の歴史を持つ教会で行われるミサは、何とも厳かで神聖な雰囲気を感じさせています。91歳になるマーティンの祖父、ジョンはこの教会のパイプオルガン奏者です。鍵盤の上を流れるように動くジョンの指に、私はしばし見とれていました。その夜も、ジョンの奏でるパイプオルガンの音が、ミサの雰囲気を一層神聖なものにし、その

場の人々の心を優しく包んでくれていたような気がします。ミサも終盤に差し掛かると、人々は祭壇の前に進み出て、赤ワイ



ンと白いクラッカーのようなものをいただきます。これはイエス・キリストが十字架に掛けられる前日の夜、いわゆる「最後の晩餐」の席で弟子たちに赤ワインとパンを振舞ったことに由来します。赤ワインはイエス・キリストの血を表し、パンは彼の肉体を表しているそうです。私とマーティンとビルはキリスト教徒ではないので、祭壇には進んだものの、赤ワインと白いクラッカーはいただきませんでした。クリスマスはキリスト教徒の人々にとって、本当に意味の深い神聖な行事であることを肌で感じた夜でした。

翌日のクリスマス、窓のカーテンを開けてびっくり。どう見ても誰かが履いていたと思われる大きな男性用の靴下にたくさんのクリスマスプレゼントが入っていました。マーティンとジュリエットの粋な演出です。ジョンも靴下を見つけたようで、彼の部屋からも喜びの声が聞こえていました。やはりいくつになってもプレゼントをもらうのは嬉しいものです。早速みんなで寝室に集まりプレゼントのお披露目会です。私のプレゼントの中身はみかんやキャンディー、計量カップ、計量スプーン。ジョンのプレゼントはチョコレート、歯磨き粉、靴下。何とも実用的なプレゼントです。でも、中身を知っているプレゼントより何が出てくるのかサプライズのあるプレゼントの方がよっぽど楽しく感じられました。イギリスでの初クリスマスは、食欲、物欲より尊ぶ気持ちと感謝の気持ちと呼び起こさせてくれるのもでした。ただし、食欲はみんな劣らずすごかったです。



<新連載> 先生、お元気ですか？（第1回） ～ 藤井 邦男 先生 ～

このコーナーには、かつて祝島小学校・祝島中学校で教鞭をとられた先生方にご登場いただき、当時の思い出や最近の様子などを紹介していただこうと思っています。第1回目は藤井邦男先生にお願いしました。



祝島中学校時代の藤井先生

皆さんお久しぶりです。私は、昭和48年4月から52年3月までの4年間、祝島中学校でお世話になった藤井邦男です。当時は、数学と理科の授業を担当し、生徒会やテニス部の皆さんと一緒に元気いっぱい楽しく過ごしていました。

祝島から転勤してもう30年が経ちました。当時の中学生も、40代後半のおじさん、おばさんとなり、当時の私の年齢をはるかに超えています。

ずいぶん経ったものですが、これまで、私の子ども二人に、私たち夫婦が結婚したルーツである祝島を見せるために二度訪れたことがあります。また、ごく一部の卒業生とはありますが、交流をもつ機会にも恵まれました。

話は飛ぶのですが、平成17年9月6日に山口県を襲った台風14号の記憶もまだ脳裏にあることと思います。当時、私は、玖珂郡の美川中学校に勤務していました。台風のため、学校も床上約150cmの冠水、美川町もほぼ全壊の状態でした。学校も使えない、お借りしていた官舎も一階は跡形もなくなり、車はもちろん使えなくなり、道路も寸断され、一時は携帯電話も通じないという、本当に孤立に近い状況でした。

いろいろな方々のお陰で復旧に取りかかったのですが、美川町の社会福祉協議会に届いた手紙や義援金の中に、東京～山口の間にいる方々からのものがあり、

社会福祉協議会の方からわざわざ私に連絡が入りました。手紙の差出人のお名前を拝見すると、祝島中学校の卒業生の方々です。その手紙はうれしさのあまり、涙がかすれて見えませんでした。今こうして原稿を書きながらも涙が溢れてきます。どれだけ勇気づけられたか分かりません。福祉協議会のお世話をされていた方も、これほど例えようもないほど嬉しいものはないと喜んでおられたことが印象に残っています。

祝島中学校から転勤し、防府市の3つの中学校ではテニス部を担当しました。私は祝島で初めてラケットを握ったのですが、お陰で部活動はテニス部を続けることができ、大変喜んでいます。県の大会ではある程度常連校となり、最高は団体戦で三位までいくことができ、息子もテニスを好きになり、中学校の時、個人戦で中国大会に出場しました。

祝島での思い出は何と言っても美しい自然です。土・日曜日も部活動をしていましたから、ほとんど島にいました。部活動のない時間帯は、一人で釣りに行ったり山道を散策したりしていました。今でも溪流釣りを兼ねたキャンプや、自然の中を歩くのが好きで続いています。島の方に船に乗せていただいて、船が傾くほどセトガイを取りに行ったことや、ピワやミカンをたくさん差し入れていただいたことが次々と思い出されます。また、私は祝島に勤務しているときに結婚したのですが、荷物を生徒や保護者の方が運んでくださったこと、転勤するときにはテープで見送りしていただいたことなど忘れることができません。

現在は、防府市の牟礼中学校に勤務しています。全校生徒が約280人くらいの規模です。生徒や地域の方とのつながりを大切にしなければいけないと改めて感じています。牟礼地区も祝島同様、歴史上、大変重要なところで、東大寺再建の重源上人とのつながりが深い阿弥陀寺というお寺があります。車で10分くらい東に行くと富海というところがあります。ここは昔からタコツボや土管などで有名なのですが、現在は「焼

き物の里」としても知られ、春と秋の「壺祭り」には、多くの人で賑わいます。よく晴れた日には、ここから祝島が見えるそうです。

先日、数人の卒業生と飲む機会を作ることができました。私の仕事は何も物を作ったりしないけれど、こんな素晴らしいつながりがあることの大切さとうれしさを改めて実感し、おいしいお酒をいただきました。いろいろな場所で、いろいろな仕事について活躍している卒業生たちと、また、ゆっくりお話したいと思っています。



昨年11月、藤井先生を囲んで。(防府市にて)

新春ライブを開催しました

國弘 秀人

～ マウンテンマウスの「元気と笑顔のブツブツ交換ライブ」～

1月4日に祝島公民館でマウンテンマウスのまーしーさん（本名：中谷昌史さん）とお友達の皆さんによる「元気と笑顔のブツブツ交換ライブ」を開催しました。

マウンテンマウスのまーしーさんは、周防大島で漁師をやりながら妹のまあCHAN（愛美さん）と一緒にライブ活動をされていて、柳井にできた「やまぐちフラワーランド」のテーマソングやプロ野球の楽天イーグルスの応援歌なども歌っています。昨年末にまーしーさんとお話する機会があり、その時に祝島の話をする、「ぜひ祝島でライブをやりたい！」とおっ

しゃって、今回の新春ライブが実現することになりました。

当日は、まーしーさんの他に、お笑いグループ「王将」のお二人（田布施・光出身）や柳井のボランティアグループ「ダンデライオン」の皆さんなども来られて、約1時間の楽しいライブを行いました。子どもからお年寄りまで、多くの島民の皆さんが参加されて楽しいひと時を過ごしました。

マウンテンマウスの公式ホームページはこちら。

<http://mau2.hp.infoseek.co.jp/>



まーしーさん&みさきちゃん 夢の競演!?



会場は手拍子と笑顔に包まれました

Part1. Dennis's first visit to Iwaishima (18)

I'm worried about the environment.

I hear that climates are changing badly here, there and all over the world. Especially global warming is the most serious problem, isn't it ?

(僕、最近地球の環境が心配なんです。地球のあちこちで気候がおかしくなってきたりって聞きます。特に地球温暖化が一番深刻な問題なんですよね。)

Yes, that's right. It rains heavily somewhere, strong hurricanes occur somewhere else, the temperature goes up high in one place or a snow storm suddenly attacks another place. It's terrible.

(はあ、それで。どこかで大雨が降りゃあ、どこかでまげな大けえハリケーンが来て、どこかで気温が高うなりゃあ、どこかで突然吹雪くんじゃあ。おとろしいのんたあ。)

But these problems were caused by us, human beings.

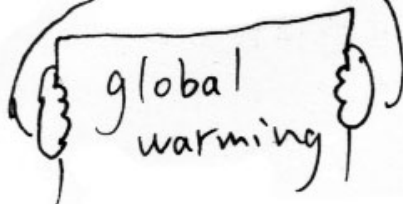
The more we use fossil fuels to make our lives more convenient, the worse the environment will be.

(ほいじゃが、こがいな問題はみなわしら人間が起こしたんで。化石燃料をよけえ使うて生活が便利になりゃあなるほど、地球の環境が悪りゅうなるんじゃあ。)

We should solve these problems. We should think how to live responsibly. I think life in Iwaishima is ideal. The people here live with nature.

(僕たちがこんな問題を解決しないとイケないんだね。いかに責任を持って生活すべきか考えなくっちゃあ。僕は祝島の生活は理想的だと思うよ。この人たちは自然と共に生きているからね。)

Dennis
(デニス)



Hashibe-san
(橋部さん)

We should keep our surroundings here in Iwaishima as they are.

(わしらが祝島の環境を守らんじゃあ。)

読者の声

紹介して欲しい懐かしの料理「カンコロ」「よもぎ羊羹」「よもぎまんじゅう」「よばれのうどん」「よばれのサラダ」「石豆腐」「ふやし」など、ぜひお願いします。

祝島のニュースおよび歴史等最高です。ワクワクして読んでいます。会員紹介は一回一人ではなくて二人でも三人でもよいのでは？私など五年後かな？と思っています。85歳になってしまいます(^_^)。イギリス通信も楽しみにしています。

毎回、大作で楽しく読ませて頂いております。ただ、発行は忙しい仕事の合間の作業と思えますので、年間2～3回程度に変更しても良いかもしれませんね・・・。

お知らせ & 募集

練塀修復作業ボランティア募集！

下記の要項でボランティアを募集しますので、ご協力をお願い致します。

< 第1期募集 >

作業期間：平成19年2月～3月

*基本的には土・日曜が作業予定日ですが、希望者が集まれば平日も行います。

2月の作業予定日は、3, 4, 10, 11, 17, 18, 24, 25日です。

作業時間：当日の午前11時から午後4時まで

問合せ・申込み先：橋部好明 (TEL&FAX 0820-66-2255) まで

*交通案内

行き：祝島行き第2便 柳井港9時30分発 (室津10時発) 祝島着10時35分

帰り：室津行き第3便 祝島発午後5時発 室津着5時30分

*昼食はこちらで準備します。

練塀修復プロジェクトへの協力金のお願い

下記の銀行口座にてプロジェクトへの協力金の受付を行っております。

皆様のご支援・ご協力をお願い致します。(一口1000円より)

山口銀行上関支店 口座番号：普通6035505 口座名義：祝島ネット21

新しい役員が決まりました！

先日行いました役員投票の結果、2007年度の役員が以下のように決まりました。一年間よろしく願いいたします。

会長：木村 力

事務局長(兼副会長)：國弘秀人

会計：重村通子

監査：橋部好明、氏本長一



編集後記

皆さん、明けましておめでとうございます。(もうひと月過ぎてしまいました...) 今年はお正月から「新春ライブ」「練塀フォーラム」とイベント続きで、なかなか忙しいスタートになりました。個人的には「アースデイ@瀬戸内」というイベントの実行委員にもなっていて、さらに毎日ホームページの更新もしないといけなないので、なかなか仕事する暇がありません・・・とも言えないので、仕事もポチポチやっています(^_^)。

今回の会報は二日間部屋に閉じこもって、ようやく完成しました。以前に皆さんから「祝島におられた先生に登場して欲しい」とのご意見をいただいておりますが、今回やっとそれが実現しました。私の中学2・3年の時の担任の藤井先生と昨年飲む機会があり、会報への寄稿をお願いしたところ、快く引き受けてくださいました。これからもいろいろな先生に登場していただきたいと思っていますので、先生方の連絡先等ご存知の方はぜひ教えてください。それから「祝島懐かしの料理」コーナーがだいぶネタ切れのようなので、ぜひ皆さんからリクエストを出してあげてください。また、2月からはいよいよ練塀修復作業が始まります。ボランティア可能な方は手伝いをお願いします。

さて、次回の会報は4月の発行予定です。お楽しみに。

(編集長：國弘秀人)

事務局では会員の皆さんからの投稿をお待ちしております。投稿はホームページからも可能になっておりますので、ご意見・ご感想・リクエストなど、お気軽に投稿してください。祝島ネット21では随時会員を募集しています。会費は1年間6000円です。入会ご希望の方は事務局までご連絡ください。



2007年の初日の出

《発行》 祝島ネット21事務局

〒742-1401 山口県熊毛郡上関町祝島

ホームページ <http://www.iwaishima.jp/inet21/>